

わかやま

VOL.17 2013.3.29

景観・まちづくり新聞

県内の景観やまちづくりに関する取り組みについて情報をお届けします。
市町村やまちづくり団体の取り組みで記事がありましたら、ご連絡ください！

発行： NPO 法人 市民のわかやま
監修： 和歌山県 県土整備部
都市住宅局 都市政策課
〒640-8585 和歌山市小松原通 1-1
TEL： 073-441-3228
FAX： 073-441-3232
E-Mail： e0809001@pref.wakayama.lg.jp
http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/080900/

景観づくりセミナー開催 和歌山県都市政策課主催

3月19日(火)和歌山県自治会館にて、「景観づくりセミナー」が開催されました。

『和歌山県景観条例』が制定されてから丸4年を迎えますが、最近の話題としては、平成23年12月27日に、わかやま景観づくり協定知事認定第1号となった「黒江の町並み景観づくり協定」と、新たに追加指定されて、今年4月1日から施行される「熊野参詣道(大辺路)特定景観形成地域」があります。

和歌山市では、この3月15日に、和歌の浦地区を景観重点地区へ指定しました。今回のセミナーでは、こうした地域での景観づくりに携わってこられた方々に講演をして頂きました。

1. 和歌の浦シンポジウムの取り組み

都市音環境計画研究所
工学博士・所長 木村英司氏

都市音環境計画研究所は、和歌浦地区の住民の景観に対する環境意識の啓発を行う目的で、和歌の浦シンポジウムを2001年より毎年開催しています。毎回著名人による優れた感性からのまちづくりに対する提言があり、地元のみならず行政担当者やパネリストに招待されています。



2000年には、シンポジウムの一環として、和歌浦小学校の生徒やPTAや高齢者の参加による、和歌の浦景観環境調査を行いました。その結果、不老橋周辺、市町川とあ

しべ通り、御手洗池に、良し悪しに関わらず人々の関心が大変高いことが分かりました。ずっと住み続けたいのですかという質問には、90%を超える方が賛同されました。こうした調査結果を踏まえて、行政に提案することにより、行政主導型から地域住民主導型へ牽引する役割を果たしていると考えます。



くろめ鉢が海南・黒江のまちなみを飾る

2. 黒江の景観づくり(海南市)

阪井俊夫氏

紀州漆器のまち海南市黒江は、紀州連子格子や漆喰壁のある古い町屋が、のこぎり歯状の家並みを形成しています。この特徴的な町並みを残そうと、行政をはじめとする色々な取り組みがあったにも関わらず、次々に取り壊されて空き地・空き家が増加してきました。危機感を抱いた地元の有志が立ち上がり、県からのアドバイスを受けながら、住民主導の景観づくりに取り組み、「景観づくり協定」を締結するに至った経緯や、今取り組んでいる、くろめ鉢の設置による漆器の町ならではの景観づくりへの取り組み等の紹介がありました。

3. 近露における景観づくりの取り組み(田辺市)

辻野昭二氏

中辺路の途中に位置して、熊野詣での参詣客が泊まる宿泊の地として栄えたところですが、最近の過疎化に対しての危機感から、様々なまちづくりに取り組んでいる様子が紹介されました。

「和歌山市のまちなか再生」その四

「賑わい」が「まちなか」や「商店街」から消え、更に追い打ちをかけるように、イオンモールがふじと台にりんくうタウン級のショッピングセンターを建設中です。第二阪和道が「ぶらくり丁」を分断してイオンモールに繋がるのは、もう目の前の15年(平成27年)です。新しく創り出す「賑わうまちなか」は、近々出現するこの強敵と共存しなければなりません。ぶらくり丁のど真ん中に、地方競馬の馬券売り場が設置されると、新たな話も出てきます。このような状況を見ると、新たに創り出す「まちなか」は、やはり「和歌山城」しかありません。

突然、30年(平成42年)春4月1日にタイムスリップしました!!

桜が満開です。和歌山市の中心、和歌山城は花見客で城内も城外も溢れてかえっています。和歌山城とダイワロイネット・市役所間の元「けやき大通り」が、なんと！森になっています。そして、その中にかわいいカラフルな売店やオープンカフェがたくさん見え、和歌山城から出たたくさんのお花見客が売店に入ってジェラードや果物、飲み物などを手に出てきて、オープンカフェで楽しいおしゃべりをしています。江戸風長屋も建っていて、和歌山ラーメン店も集積してきているようです。また、「まちなか中心核」を担う「旧伏虎中学校」校舎は手づくり工房などとしてリノベーションされ、再生活用されています。校庭はフルーツなどの和歌山県特産品の一大直販市場として、今日も大勢の人を集めています。「まちなか賑わい」が復活してきたのです。北側はバスの駐車場になっていて、乗客がお城に向かっていきます。また、市堀川沿いの遊歩道は美しく植栽され、川に開けたお洒落な店が開店するようになってきていて、本町公園辺りには新しいマンションが見えています。

(次号へ続く)



和歌の浦景観ウォーク(和歌山市主催) 3月20日(水)

景観・まちづくり新聞16号でも紹介しましたが、和歌山市が平成24年1月より、進めてきました景観施策、和歌の浦(雑賀崎・田野・和歌浦地区)の景観重点地区指定に向けての取り組みが、景観審議会に於いて承認され、平成25年3月15日に指定されました。和歌山市では「景観重点地区」の指定は「和歌山城周辺(※1)」に続いて2例目になります。



高津子山上で語り部から、和歌の浦の景観について学びました。

和歌山市都市整備課では、これを記念して3月20日にウォークを開催しました。当日の雨模様の中にも関わらず、和歌浦を愛する40名の方々の参加がありました。景観ウォークは、和歌の浦・田野・雑賀崎の長い歴史に彩られた、独特の文化と景観に、実際に触れて感じてもらうという企画です。

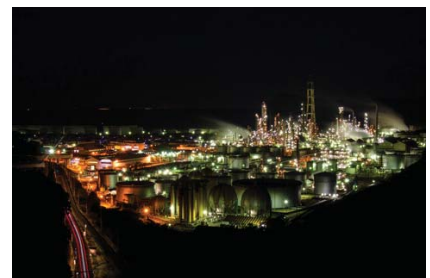


途中、日本の飛行船開発のパイオニア山田猪三郎の顕彰碑や新和歌浦観光開発の先人・森田庄兵衛の碑の前で、和歌山市の偉人について紹介がありました。高津子山頂からは、妹背山・玉津島・片男波など万葉の時代から詠われた優れた景観に感銘を受ける一方で、北側に広がる水軒浜の松林が、かつては砂浜が広がっていた時代の名残であることを、写真パネルでの紹介があり、景観の歴史的な変遷についても学びました。

海岸線では、遊歩道沿いの、蓬莱岩など、かつては観光の目玉であった自然景観も最近ではあまり注目されないとところもあります。その一方で、田野の海岸や雑賀崎では、小さな港を取り囲むようにして、急な傾斜地から上まで折り重なるようにして密集した民家が、市街地では見られない、この地域特有の景観として注目されています。

ふるさとフォトグラファー

12・1月の入選作品より



フリー投稿

「東燃ゼネラル石油」

ふるさとフォトグラファー：C r u0329
撮影日：2013年1月23日20時24分
入賞作品へのコメント

和歌山県であって夜の工業的な風景で昼間と違った別世界を感じる。24時間稼働しているエネルギーを感じ和歌山の未来に続く。

「きのくに風景讃歌」の「ふるさとフォトグラファー」のページでは、ふるさと和歌山県のすばらしい景観や町並み、建造物、文化遺産などの写真を募集しています。



新和歌浦の観光開発の先駆者・森田庄兵衛の顕彰碑の前で解説に聞き入る参加者。

※1 「和歌山城周辺景観重点地区」については、景観・まちづくり新聞11号をご覧ください。

景観・まちづくりイベントの紹介

2013年4月6日(土) 11:00～ (和歌山市)

・第4回 わかやま城下町バル ～春はさくらバル～

<主催> わかやま城下町バル実行委員会

TEL 070-6503-3797(10時～19時) / FAX 073-435-3374

<開催場所> 和歌山市中心市街地参加飲食店 115店舗が参加

<前売券販売所>

観光土産センター、フォルテワジマ、和歌山NPOセンター、セカンド、いろは劇場、喫茶もくれん、ミソノバル、ひと休み、てんぞ、くろしお、HIDE OUT CAFE、ライオンホルモン、ひいな湯 他
当日券販売所 城下町バル当日本部

詳細は、下記主催者ホームページをご覧ください。
<http://baru.wakayamashi.jp/>



詳細は、「みんなで作る情報板 わかやまイベントボード」をご覧ください。
<http://eventboard.shiminjuku.jp/> (NPO 法人市民のわかやま管理・運営)

「景観・まちづくり新聞」のバックナンバーは「きのくに風景讃歌」のサイトからダウンロードできます。

「きのくに風景讃歌」

<http://www.kinokuni-sanka.jp/>



NPO 法人 市民のわかやま

〒640-8215 和歌山市橋丁21番地N2ビル3F

TEL/FAX 073-428-2688

URL <http://shimin.or.jp/>

e-mail info@shimin.or.jp

受付時間 月～金 9:30～16:30 ※土日祝休み

